

1号機タービン建屋低電導度廃液サンプル（A）の監視について

平成 18 年 2 月 17 日
東京電力株式会社
福島第二原子力発電所

当所 1 号機は定格熱出力一定運転中ですが、平成 18 年 2 月 16 日午後 5 時 25 分頃、第 4 給水加熱器*¹（B）に取り付けられている逃がし弁*²から温水がファンネル（排水受け容器）に断続的に流入していることを確認しました。

当該ファンネルへの温水の流入は、逃がし弁のシートリークによるものと推定しました。
（添付「1号機復水系概略図」参照）

その後、当該逃がし弁を締め付け治具により増し締めする処置を行い、シートリークはほとんど止まっておりますが、流入先であるタービン建屋低電導度廃液サンプル*³（A）のポンプ運転状況ならびに当該サンプル内の水温について継続して監視*⁴することにしました。

現在、サンプルポンプの運転状況、サンプルの水温とも安定して推移しております。

本事象は、プラント運転上の安全に影響を及ぼすものではなく、また、外部への放射能の影響はありません。

以 上

* 1 : 給水加熱器

原子炉へ戻す水（給水）の熱効率を上げるため、給水の温度を上げるために使用する機器（3系列あり、1系列に6台設置）。

* 2 : 逃がし弁

給水加熱器内の水の膨張による圧力上昇を抑制するため、これを逃がすための弁。

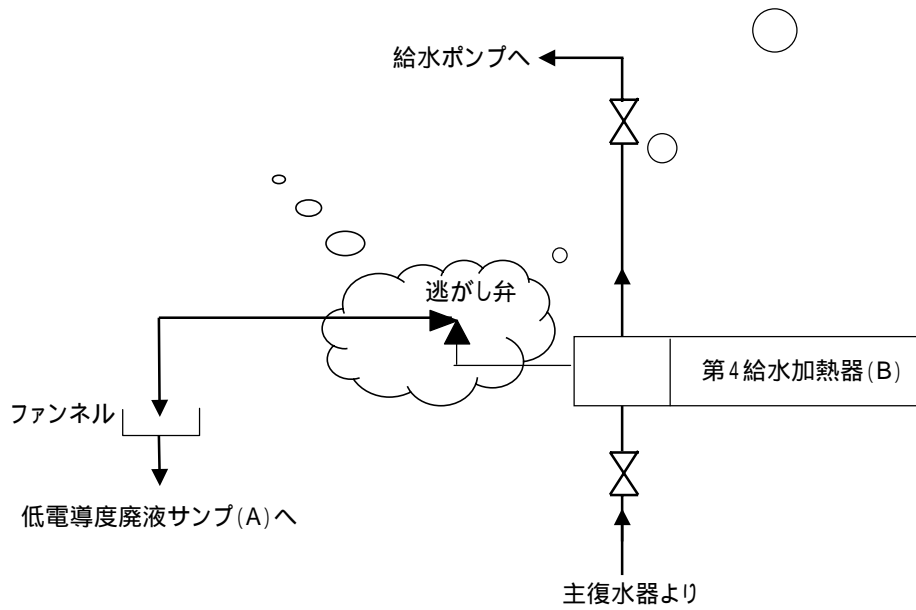
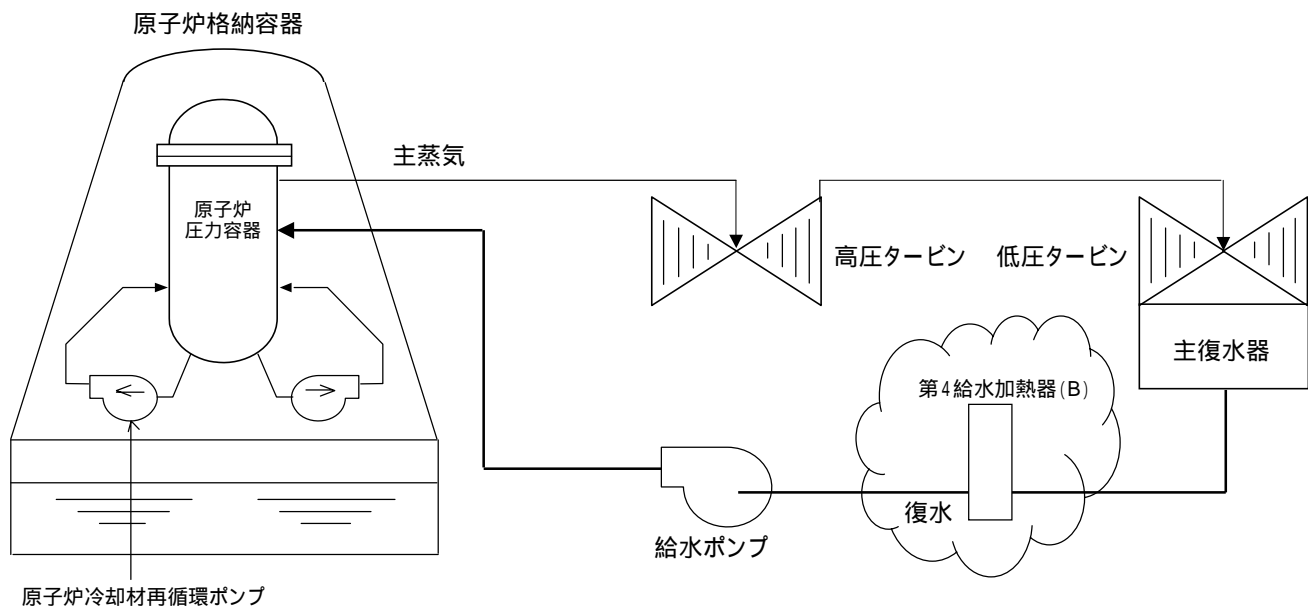
* 3 : 低電導度廃液サンプル

建屋内の機器からの排水、試料採取の廃液等を受けるタンク。

* 4 : 継続して監視

平成 17 年 9 月 30 日、第 4 給水加熱器(A)に取り付けられている逃がし弁のシートリークによる低電導度廃液サンプル(A)への温水の流入が確認され、同日より当該サンプルのポンプ運転状況や水温について監視を行なっている。（平成 17 年 10 月 3 日お知らせ済み）

「当社原子力発電所における不適合事象の公表方法の見直しについて」（平成 15 年 11 月 10 日お知らせ済み）における、区分Ⅲに該当するものとしてホームページに掲載したものです。



1号機 復水系 概略図